

令和5年度 学校評価書 大津市立瀬田南小学校

評価方法

- ・評価項目を設定し、各アンケートより共通する設問を抽出。
- ・評価項目ごとに達成率の平均を今年度の評価とし、右表に従い評価。
- ・結果をもとに考察を行い、改善の方向性を提示する。
- ・次年度、改善の方向性に基づき、具体策を練り上げて、学校改善を進める。
- ・4択回答のうち、「0はよくあてはまらず」「1はどちらかといえばあてはまらず」「2はまああてはまらず」「3はよくあてはまらず」の肯定回答を合計し、項目の達成率を提示。

【評価値(%)】

80～100	3	よくできている
70～79	2	できている
61～69	1	まあできている
0～50	0	できていない

項目	評価の観点	対象No.	アンケート項目	達成率(%)	平均(%)	自己評価(3-2-1-0)	学校評価委員の評価(3-2-1-0)	今年度の成果・課題	次年度へ向けて
主体的・対話的で深い学び	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	見 1	あいさつを進んでいる。	3	3	3	3	・委員会活動を通して、仕事に責任を持って取り組むことや、異年齢で活動することを通して、自己有用感の高まりや他者と協力して取り組む態度が育まれた。 ・たて割り活動を通じ、6年生と仲良くなり、あがれを持ちたりして、たてのつながりが感じられた。また、5年生に次期のリーダーとしての役割が果たされた。 ・学級会や代表委員会での話し合い活動を通して、児童が主体的に取り組む態度が育まれた。 ・校内研究のテーマを「子どもが学びを実感できる授業づくり」とし、全学年が授業を公開し、授業研究会を行うことでより良い授業づくりに努めた。今年度は共感的に聴ける子の育成を目指して聴方のフーズを整理したり、ICTの活用を通して考えを交流、深く合う場の設定を工夫したりした。また、主体的・対話的で深い学びとなるように職員研修も実施し、課題改善に努めた。さらに、全国学力学習状況調査の結果分析を全職員で実施し、課題と本校の重点を明確にした上で研究を進めた。	・今年度は行事や委員会の仕事が多くなり、児童にとっても非常にタイムスケジュールであった。次年度は、委員会活動やたて割り活動と行事との関連性を考え、体育発表会の応援練習など、より効果的に異年齢交流ができる機会を精選し、児童にとってもゆとりのある時間設定をする。 ・年間計画に則った学級会での話し合い活動など、各学級での学級活動を充実させることを通じて、より支持的風土の醸成を目指すしていく。
		保 4	学校に仲のよい友達がいる。	3					
	見 2	授業中は進んで発表している。	1						
	職 2	ICTの活用を聞きながら、協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	3						
	職 3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	3						
	見 8	ものごとを様々な視点から考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	3						
道徳教育の充実	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳の実践力を育てる活動の実施	見 2	そうじを進んでいる。	3	2.8	3	3	・11月に全校道徳参観を実施した。 ・道徳の授業では、教材準備をしかりできたことで、児童がものごとを様々な視点で考えることが多かった。 ・教材をもとに、保護者への手紙を書くなど、自分事として捉えようとしているように様々な授業展開の工夫を行った。	・これまで通り、児童、職員の共通認識を大切にして指導にあたっていく。 ・アンガーマネジメント等の感情コントロールについての学習や温かい雰囲気のある学級づくりを行う。 ・次年度も引き続き授業参観を実施し、家庭と連携を図ってきたい。 ・普段の生活と関連させて考えたり、自分事として捉えたりできるような授業展開の工夫を怠らない。
		見 13	困っている友達にやさしくできる。	3					
	見 16	人のいやがることをしたり、言ったりしていない。	2						
	保 7	優しい子どもも育っている。	3						
	職 4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳の実践力を育てる活動を実施している。	3						
	見 5	ものごとを様々な視点から考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	3						
体力づくり	7 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	見 10	体を動かすことが好きだ。	3	2.75	2	3	・全校統一で体育の宿題を出し、月ごとに多様な運動に取り組ませることができた。 ・夏の校内研修では、学年部ごとに授業研究を行い交流し、授業の工夫改善を図った。 ・学期ごとに学年行事を行ったが、学年によって参加人数が異なり、学年の体育の様子をあまり交流できなかった。	・体育の宿題のように、全ての子が運動に触れる機会を増やしていく。 ・体育発表会を全校参観し、異学年の姿に憧れを抱き、運動に関心を持っていくようにしていく。 ・体育実践の様子を学年間で交流できる機会を増やす。
		職 7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善を行っている。	3					
	見 8	体力づくりを推進する運動・学習をしている。	2						
	見 9	生涯にわたって健康を維持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	3						
	見 10	漢字や計算の学習が好きだ。	1						
	見 11	自分から進んで宿題や自主学習をしている。	2						
指導改善(組織的・計画的)	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	保 5	自分から進んで宿題や自主学習をしている。	1	2.75	3	3	・学力学習状況調査の結果を全職員で分析し、指導の重点を共有し、学力向上策を決定することで全体の学力向上を目指した。 ・テストやドリルなども学年単位でなく、学校単位で揃えたり、児童の実態に応じて教材検討を進めた。 ・新たにオンラインドリルの導入を検討し、GIGAスクール構想における一人一台端末の活用、個別最適な学習がより進められるよう環境整備を進めた。	・漢字や計算の学習意欲や、児童が自ら進んで学習に取り組む力を向上させていくよう、家庭学習の取り組みについても改善を進めた。 ・基礎基本の習熟や学習習慣の確立を大切にしながら、個に応じた発展的な学習についても検討してきたい。 ・引き続き、家庭学習の手引き等を活用したり、啓発したりしながら、家庭との連携を進めていく。
		見 7	学校の勉強はよくなる。	3					
	保 6	学校の勉強をわかっている。	3						
	保 3	授業がわかりやすいと言っている。	2						
	見 11	OJTの推進などにより、指導力・情報活用能力や教育力の向上に努めている。	3						
	見 12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2						
育ちと学びを支える連携	13 読書活動の推進	見 9	本を読むのが好きだ。	2	1.33	2	2	・図書委員のくじ引きや読書貯金などの取り組みで、低学年は積極的に活動していたが、中高学年には伸び悩みが見られた。 ・地域の方たちによる、読み聞かせや本の寄贈などの取り組みにより、地域とのつながりが深まっている。	・既存の取り組みのほかに、読書が普及できる取り組みを児童とも相談しながら考え、取り組んでいきたい。
		保 8	読書の好きな子どもも育っている。	0					
	見 17	お家の人と学校のことを話している。	3						
	見 14	子育てや家庭教育に対する積極的な支援	2						
	保 2	2学校のことをよく話す。	3						
	保 10	学校行事には参加するよう心がけている。	3						
① 家庭・地域との連携・協働	15 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	保 17	学校は、いろいろな情報を提供している。	3	3	3	3	・昨年度末から懸念になっていた、読書活動に関連するボランティア団体とPTAとの横の連携を図る「読書活動推進協議会」を本格的に発足させ、学期に一回会議を持つことで様々な取り組みについて連携させることができた。 ・室休みの見守り隊の人員が限られていたため、保護者に協力を求める書面を出し、5人の新たな参加者がいた。各家庭にも地域の方に見守っていただいていることを紹介する良い機会になった。 ・びわ湖ローイングクラブと連携して5年生の環境学習、老人会との世代間交流事業(3-5年)、フアラート・まちづくりの会に協賛でのイルミネーションなど、双方向型の新しい連携活動を実施することができた。	・今年度の取り組みを全職員や全校児童、保護者に広く知らせいく方法を考えていきたい。 ・担当だけでなく教職員の誰が担当しても地域連携活動を続けていけるよう、校内体制のあり方を考えていく必要がある。
		保 15	保護者・地域、との交流・情報発信、懇談会・参観・地域人材活用を適切に行っている。	3					
	保 12	学校経営・教育方針を知っている。	3						
	保 13	学校は、子どもの安全のために保護者や地域団体と協力して適切な取り組みをしている。	3						
	保 16	子どもたちの安心・安全に気を付けて指導している。	3						
	見 17	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2.75						
② 保幼小中の連携	18 校種間の授業公開や合同研修会	見 17	保幼小中の連携に努めている。	2.75	2.75	2	2	・1年生と保幼、5年生と保幼など園児・児童同士の交流を年に数回設定し、実施することができた。お互いのよきを見つめられたり、児童にとっては思いやりの気持ちを持ちやすくなる機会となった。 ・中学校とは教員同士の情報共有や授業の参観をお互いするなどし、円滑な連携を図った。	・教育課程の編成を協同で行うなどまでの取り組みが十分ではなかった。時間的な制約もある中、よりよい連携の仕方について今後検討できる機会をつつていきたい。
		保 18	保幼小中の教育課程の編成等、円滑な連携を図る校種間のカリキュラム研究を行っている。	3					
	見 12	困っているときは、先生に相談できる。	3						
	見 15	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	3						
	見 19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導を行っている。	3						
	保 15	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3						
① 生徒指導体制の充実	21 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	見 20	生徒指導や教育相談等において学校組織として対応している。	3	3	3	3	・職員が意欲高く持つことにより、児童がまたこのことを信頼し相談することができている。また、教員自身が教務や管理職との連携を図ることにより、安心して指導にあたることもできている。 ・児童には3つの約束(あいさつ・そうじ・くつそえ)が浸透してきているが、身に着けるまでには至っておらず、そのため、保護者の方の評価も低いと思われる。 ・児童、保護者が相談しやすい環境を整えるため、教育相談時間等十分な時間を取りたい。 ・子どもの活動(あいさつ運動、みなみこのきまり)についての啓発活動、くつそえ発表などを保護者に発信し、学校の指導への理解を回り、家庭と連携してより良い育成に努める。 ・長期休暇前の生活指導や保健だよりなどで周知していき。	
		保 14	学校は、子どもに何かが起きたときの指導をきちんと行っている。	3					
	見 5	「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけている。	2						
	見 21	生徒指導の課題に家庭・地域・関係機関と連携して指導や対応にあたりたい。	3						
	保 1	集団生活のルールやマナーを身につけている。	3						
	保 11	家でも3つの約束「挨拶、そうじ、靴そろえ」を大切にしている。	1						
② 特別支援教育の充実	23 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	見 13	困っている友達にやさしくできる。	3	3	3	3	・年間計画をもとに、学年部ごとに担当コーディネーターを決め、組織的・計画的な体制作りに取り組んでいる。 ・関係機関と連携して、特別支援教育が充実するように努めている。	・個別指導計画をもとに、よりよい指導・支援、保護者との連携をさらに充実させたい。 ・関係機関との連携、ケース会議などの体制づくりを確立してきたい。
		見 22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用を行っている。	3					
	保 7	優しい子どもも育っている。	3						
	見 23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立ができている。	3						
	見 25	関係機関と連携した相談体制の充実	3						
	見 24	関係機関と連携した相談体制の充実ができている。	3						
学校満足度	26 児童生徒の学校満足度	見 4	学校へ行くのが楽しい。	3	3	3	3	アンケート結果から	
		保 9	喜んで学校に行っている。	3					
		保 16	学校は、子ども理解に努めている。	3					
		職	アンケート結果から	3					

※ 特にいじめについては、学校基本方針の関連と関連させて行うこと

児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.47
保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.53